



新しい命を迎えるために再生した「空の森」



建築が美しい森と交じり合う

**選評**

低く抑えられた木造の回廊が建物の周囲を巡る。強い日差しを避けて玄関扉をくぐると、程よい大きさの空間の中にデスクが置かれている。それが外来受付だ。室内は落ち着いた色調の木が使われ、リゾート地の高級ホテルに足を踏み入れたような感覚に包まれる。実はここが不妊治療のためのクリニックである。

白い無機質な壁、ツヤのあるリノリウムの床、長い受付カウンタ―、長椅子の置かれた待合、これらの病院らしさを生み出すものは全て注意深く排除されている。建物だけでなく働く人も同様だ。医師も看護師も職員も、患者を緊張させる白衣ではなく、藍色の清潔な衣装をまとっている。

那覇市の南、住宅がまばらに立

ち並ぶバイパス沿いに敷地は位置する。面積は約二二、八〇〇平方メートル、ここに平屋で三、〇〇〇平方メートルの建物建てる計画である。このプロジェクトのテーマは、戦乱で失われてしまった森を敷地周辺に再生し、これまた沖縄ではほとんど見かけなくなった木造で、患者目線の新しい医療を展開する場をつくることであった。

「人間は多くの微生物と共生しながら生きてるのが自然で、無菌状態に近づけようという閉鎖的な病院建築は、患者が本来持っている治癒力を弱める」という院長の考えに基づき、可能な限り外部に開くことのできる医療空間がつけられている。

高い空気清浄度が要求される手術室・採卵室・人工授精室等だけは、一まとめにして琉球石灰岩仕上げのRC造で中央に配置、その周囲に中庭を介して木造の診療室



# 空の森クリニック

空の森 CLINIC

エントランス



BCS賞は、建築の事業企画・計画・設計、施工、環境とともに、供用開始後1年以上にわたる建築物の運用・維持管理等を含めた総合評価に基づいて選考し、建築主・設計者・施工者の三者を表彰する建築賞です。  
この賞は、1960年にはじまり2018年で59回を数えます。

< 2018年 第59回 BCS賞受賞作品 > 太田市美術館・図書館 高知県立高知城歴史博物館 コープ共済プラザ 新豊洲 Brillia ランニングスタジアム すみだ北斎美術館 洗足学園音楽大学 Silvermountain & Redcliff (e-cube) 空の森クリニック 高崎アリーナ 多治見市火葬場 華立やすらぎの杜 立川市立第一小学校・柴崎学習館・柴崎図書館・柴崎児童保育所 デンソーグローバル研修所・保養所「AQUAWINGS」日本無線先端技術センター パナソニック スタジアム 吹田 羽田クロノゲート 益子町地域振興拠点施設「道の駅ましこ」  
【特別賞】名駅一丁目1番計画 (JRゲートタワー、JPタワー名古屋)

# 建築主

理想の医療環境を目指して

医学の進歩は、時に患者を置き去りにし、本来心身の痛みを癒すための医療行為が、患者へストレスを与えることが多いものです。特に生殖医療の分野ではストレスを取り除くことが治療効果を向上させるために重要な課題です。病や不妊の辛い思いを「空」にし、自らも自然の一部であることを「森」に佇むことで認識してもらい、ストレスレスの環境で治療効果を高めたいと想いました。

グラフィックデザイナーの佐藤卓氏と構築

した我々のコンセプトを、設計者の手塚貴晴氏・由比氏は木造回廊型平屋の建物と沖縄に自生する植物でつくる森で具現化していただきました。

開院して4年が経過した現在、年間6万人が来院し、700人の方が妊娠されています。利便性や効率性が重視される医療施設と違い、患者とスタッフの癒しを最優先したこの施設で、我々は高度な医療技術をきめ細やかなケアとともに提供し続けていきます。



医療法人 杏月会  
空の森クリニック理事長  
**徳永義光**  
Yoshimitsu Tokunaga



回廊越しに中庭を見る



株式会社手塚建築研究所  
代表取締役  
**手塚貴晴+由比**  
Takaharu Tezuka  
+ Yui Tezuka

## 沖縄の森と人の共生を育む木造医療空間

「空の森クリニック」は、人と自然の共生関係を取り入れた最新医療の不妊治療クリニックです。

かつて沖縄には美しい木造文化があり、空間が爽やかな海風と共に生きる文化がありました。それを先の大戦で失われた沖縄の森と共に復活させることを目論んでいます。

「空の森クリニック」は沖縄では雨端と呼ばれる深い軒に囲われています。医療機関には珍しく外廊下です。個室の引き戸を開け放

てば、ベッドは沖縄由来の植物に満たされた庭と一つになります。

人の生命の誕生にはバクテリアを含んだ自然環境との共生が鍵であるという思想を映した結果です。木構造はきわめて単純です。可能な限り在来の木構造で対応可能な空間構成となっています。

中心部には清浄度ISO6の高度医療空間を備えています。過去から未来へとつなぐ新しい医療建築です。

# 設計者



患者に配慮した柔らかい設えの手術室



琉球石灰岩仕上のクリーンルーム

と病室が置かれる構成となっている。これらの諸室は、沖縄の伝統的半外部空間「雨端（アマハジ）」になぞらえた回廊で結び付けられていて、引き戸を開けると「雨端」越しに外部の再生された森と一体化する。

沖縄の厳しい風土も考慮されている。台風は毎年襲われる土地柄を考え、動線となる回廊空間は、アクリルの入った格子状の雨戸を引き出して、非常時には内部化できるようなっている。また木造の弱点であるシロアリ対策として

は、脱皮を阻害する薬剤を土中に設けたトレンチ状の空間に設置（ベイト工法）しているとのことである。三年半を経過した現在、これらの問題は生じていないと聞いている。

外部へ開かれた空間をはじめとして、スタッフステーションと病室の関係など病院建築のセオリーに反する構成が見られるのは、管理者側の視線ではなく、患者の側から病院施設を見直した結果であろう。開院から間もなく五年目を迎えようとしている今、患者は沖

縄県内にとどまらず日本国内や海外からもやって来ているという事実が、そのことの重要さを物語っている。

現在は、使う人ではなく管理者の側にとって設計された施設があまりにも多い。これからの超高齢化社会においては、使う人の視線に寄り添った建築が益々求められるであろう。このクリニックはそうした建築の好例となるものである。

【選考委員】  
山本圭介・山本茂義・賀持剛一

# 施工者

前例のないクリニック  
「想いを一つ」に造り込み

空の森クリニックは、県内では前例のない大規模木造建屋、外周部もすべて大型の木製建具で構成されています。沖縄の気候風土を考えた時、様々な課題が浮かび上がってきました。

課題を克服するため、建屋及び建具のモックアップを作成し、工法、手順、細部納まり、強度の検証を行い施工しました。

また、手塚先生の建物に対する強い想いを担当スタッフの皆様が具現化、一切妥協しな

い、手間を惜しまず描かれる手書きのディテールを見たとき、施工者としては何としてもちかたちにせねばと職人たちと共に懸命に造り込みを行いました。

建築主をはじめ、設計者、施工者が「想いを一つ」にもつくりこみに邁進できたことに感謝しつつ、この栄えあるBCS賞受賞の喜びを携わったすべての関係者の皆様と共有したいと思えます。



株式会社沖電工  
建設部 土木建築課  
土木建築課付課長  
(当時現場所長)  
**與那原幸蔵**  
Kozo Yonahara

### 計画概要

建築主：医療法人 杏月会

設計者：(株)手塚建築研究所  
(有)オーノJAPAN

施工者：(株)沖電工

所在地：沖縄県島尻郡八重瀬町字屋宜原229-1  
竣工日：2014年10月15日

敷地面積：12,762㎡  
建築面積：3,487㎡  
延床面積：2,996㎡

階数：地上1階  
構造：木造、鉄筋コンクリート造